

2024年2月29日

カンザスシティの街は2月11日のNFL優勝決定戦スーパーボウルに向けてチーフスの応援ムード色だった（その後、チーフスが優勝）。カンザスシティは、2026年、北米3か国計16都市（米国11都市）で開催されるサッカー・ワールドカップの中西部唯一の開催都市でもあり、また、NYTが発表した「2024年訪れるべき場所52」にも入った。



チーフス応援ムード色のユニオン駅

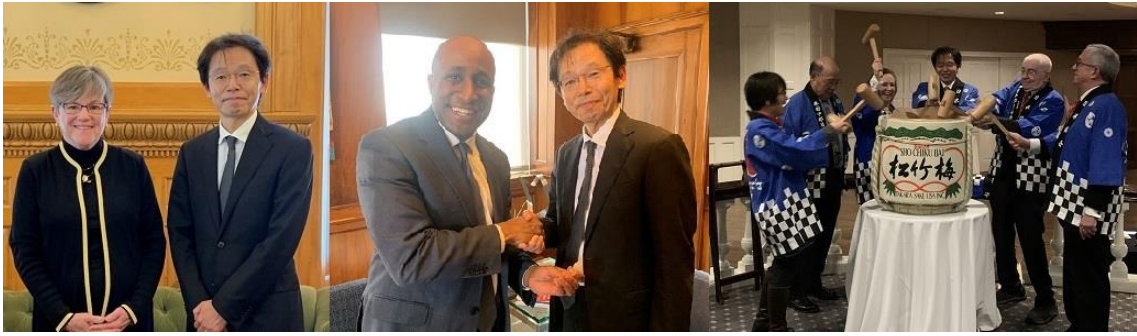
カンザスシティの街並み

## 1 カンザス出張

2月2日、カンザス州のケリー知事とトーランド副知事（兼商務長官）と会談した。知事とは、昨年9月に日米中西部会の際に東京でお会いしているが、今回は着任挨拶との位置付け。知事は幼少期に日本滞在経験がある。経済投資と文化・人的関係が、草の根レベルの日米関係の車の両輪との認識を共有した。

「Q市長」と呼ばれるルーカス・カンザスシティ市長はチーフスの大ファン。南ア留学中にアパルトヘイトの遺産を目撃した経験が、米国におけるアフリカ系に対する不平等に関する同市長の認識に影響しているという。私からも、1994年南ア大統領選挙を監視団の一員として視察した経験をお話した。

土曜日、日本語補習校を視察した後、「Heart of America」日米協会の新年会に出席。2004年にカンザス日本総領事館が閉鎖された後、日本との友好親善関係の原動力となってきたのは、歴代の日米協会関係者、倉敷市との姉妹都市関係者、名誉領事の方々であることを再認識した。



ケリー知事と会談

「Q市長」と会談

日米協会の新年会

## 2 アジア系米国人ガラディナーを日系米国人がホスト

2月10日、シカゴ・アジア系米国人連盟（AACG）の最大イベントである旧正月祝賀夕食会に参加。当地におけるアジア系コミュニティの文化的多様性を示すと同時に、連帯と調和を確認する機会だ。

この夕食会のホストは、加盟アジア系コミュニティの中で持ち回りになっている。本年は日系コミュニティがホストを務めた関係で、日本総領事である私が挨拶の機会を頂いた。多くの日本人コミュニティも積極的に成功のために協力し、日系人と日本人との連携が一層深まる機会ともなった。

日系人の方々が歩んだ苦難の道を思い起こすと、日本人の血を引いた日系人が米国社会の中で今のような高い地位を占めて活躍し、この米国社会の偉大さに貢献していることを、嬉しく、また誇りに思う。



当地美湖連による阿波踊り

各コミュニティの代表者を顕彰

## 3 2月23日 天皇誕生日祝賀レセプション

2月23日、日本のナショナル・デイにあたる天皇陛下誕生日祝賀レセプション

ンを主催した。私の挨拶では、外国御訪問を含めた最近の両陛下の御様子、4月に予定されている岸田総理の訪米、日米関係の基礎に人と人の繋がりで長年にわたり培われてきた信頼と友情の絆があることを述べた。遠路はるばる駆けつけてくれた5人の名誉領事も一緒に登壇してもらった。インディアナ州務長官とシカゴ副市長から祝辞を、3人の知事からビデオ・メッセージを頂いた。

10年前に発刊された外交に関する書籍の中には以下のような記述がある。「各国大使館は、年1回の最大行事として、独立記念日等にナショナルデー・レセプションを開催する。(中略)各国大使は、時間とエネルギーを費やして、(中略)各界要人の参加をどの程度多く得られるかを競い合う。政治や外交とは無関係の余興ではない。主催国と主催者の外交的、政治的、経済的な力と威信を誇示する外交の現場そのもの。」

総領事として初めて主催してみると「総領事館は少し違うかな」と感じる。在留邦人、日系人、米国の友人たちと一緒に、象徴天皇の誕生日を祝賀することで、日本に思いを馳せ、日米の信頼と友情を確認する場との色彩が強いと感じた。因みに、30年前の1994年、当時の天皇皇后両陛下は国賓として米国を御訪問された際に、中西部のセントルイスも訪れている。



挨拶では名誉領事も一緒に登壇

シカゴ日米協会の理事長御夫妻と

#### 4 南部インディアナ州

ラディウス・インディアナ(州南西部の中部8郡から構成される地域経済開発パートナーシップ)から招待を受けて、2泊3日でインディアナ南西部を訪問。トヨタとその関連企業のプレゼンスが大きく、日本からの投資への期待が特に高い地域だ。州財務長官、郡関係者、11名の市長、経済開発組織関係者、連

邦議員の地元事務所長、ステークホルダー等に対して、夕食会や昼食会でのスピーチ等を通じて、日米関係・同盟が長年超党派の支持を享受していること、4月10日の岸田総理公式訪問と期待される成果、日米関係の基礎には長年の経済関係や人的交流により培われてきた信頼と友情の絆があること、再活性化している日本経済社会等について、発信する機会を得た。



トヨタ自動車インディアナ（TMMI）視察

基調講演

## 5 人道の外交官 杉原千畝へのトリビュート・コンサート

2月29日、イリノイ州ホロコースト博物館で「A DIPLOMAT FOR HUMANITY - A CONCERT FOR SUGIHARA」が、著名チェリストの日系人クリスティーナ・レイコ・クーパーと尺八演奏者ザック・ジンガーにより行われた。「1940年のリトアニアで、自らの生命とキャリアを危険に晒しながら2100件以上のビザをユダヤ人に発給し、何世代にもわたり（クリスティーナの義理の父を含む）何万人もの命を救うことになった外交官杉原千畝と、個人の行動で状況を変えることができるとの信念へのトリビュート」と博物館からの紹介にある。今回、私はコンサート冒頭に挨拶する機会を頂いた。

昨年11月に博物館を視察した際に、「命のビザ」で救われたという御婦人と偶然にも対面した。私が日本の外交官というだけで、手を取って目に涙を浮かべて、日本で学んだ日本語で「有難う」と仰って頂いた。

コンサートの後、コンサートに出席されていた御婦人の御家族、クーパー氏とジンガー氏、博物館の担当者等を交えた夕食会を催した。多くのユダヤ系米国人が日本人に親しみと感謝の念を持って接してくれるのは、「命のビザ」で知られる杉原千畝の存在が大きい。

カウナスの「スギハラ・ハウス」、敦賀の「人道の港 ムゼウム」、今夜のコンサートのような営みが、杉原千畝のエピソードを後世に伝えて続けていく。それに感化・鼓舞された人たちの中から、危機的状況の中で杉原千畝のように行動できる人物が出てくることを期待。



故杉原千畝氏

コンサート後夕食会